

31H 森野 葵 32H 立川 陸 33H 浅野 彬
 35H 濱田 萌子 35H 岡田 京佑 36H 小倉 功暉

■課題

農作物の被害を減らし、里山の環境を保全するためにイノシシの数の増加を抑える。

■解決策の概要

イノシシの生息域の拡大や個体数の増加は、農産物の被害などの問題を引き起こすので、近年イノシシの駆除が増加している。しかし、イノシシの需要量は少ない。そこで、肉を給食に提供したり、皮を学校の通学カバンに登録したりすることで、イノシシの消費量を増加させる。

■農作物への被害と狩猟者数の現状

【農作物被害額】
 耕作放棄地の増加や森に人の気配がなくなったことなどにより2010年と2018年を比べると約4倍に増加し、獣害は農家が農業をやめる理由の一つになっている。

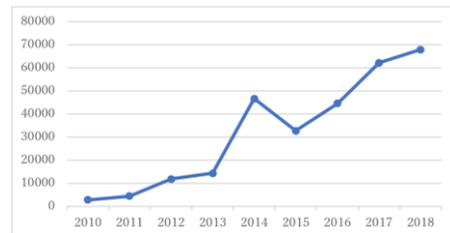


図1 イノシシの農作物被害額 (能登地域)

【狩猟者数の変化】
 狩猟の高額な経費や銃所持許可手続きの煩雑さなどにより1970年度から2012年度まで、6割以上減少した。また狩猟者の高齢化が進み、2012年度では60歳以上の方が6割を超えている。

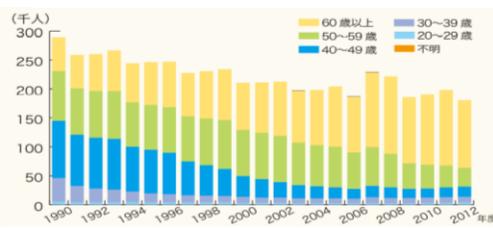


図2 年齢別狩猟数 (全国)

higaigaku_suii_h22-r1_3.pdf (ishikawa.lg.jp)
imatora_fin.pdf (env.go.jp)

■能登のイノシシ捕獲数、生息域の現状

【捕獲数の増加】
 数、密度、分布などの側面を含めた目標設定を踏まえ、適切な捕獲や、地域の実情に応じた狩猟制限・緩和等により個体群をコントロールしている。

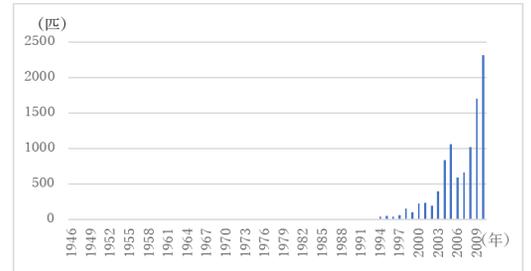


図3 能登のイノシシの捕獲数

【生息域の変化】
 餌場、隠れ家となる放棄耕作地の増加などの影響により、全国に見ても40年前の約1.7倍に拡大している。イノシシの繁殖力の高さも生息域の変化に影響している。

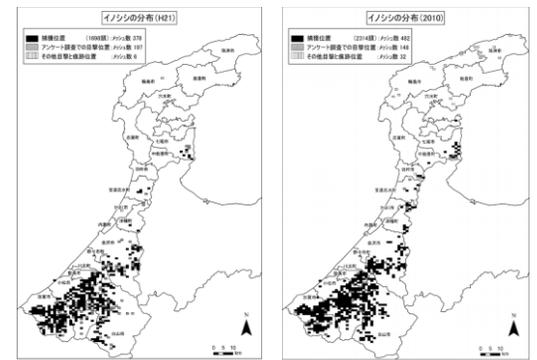


図4 イノシシの分布

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/report/documents/report38-6.pdf>

■解決策① (給食案)

月1程度のペースで能登地区の小、中学校を対象にしてイノシシ肉の給食をふるまう。

<効果>

- ・定期的に肉を買い取り、安定した収入を猟師に与える。
- ・その珍しさなどから地方のメディアなどに取り上げられる事によりイノシシ肉に興味を持つ人が増え、他方面のイノシシ肉の需要のさらなる増加につながる事が期待できる。

<結果>

近年進んでいる猟師離れに少しでも歯止めをかけることができ、イノシシ肉の需要の増加により、イノシシの数を減らすことができる。個体数が減ることにより、イノシシによる生態系の破壊、農作物の被害を抑えることができる。



<https://colorfuru.jp/gourmet/12298/images/12318>

■解決策② (学校のカバン案)

イノシシの皮を中学校のセカンドバッグの素材に利用する。

<効果>

- ・イノシシの需要が増える。
- ・猟師の収入の安定につながる。(毎年、生徒の数の量の注文を受けることができるため)

<結果>

猟師の人手不足の原因である猟師の資格を維持するための費用の割にあった収入が手に入り、イノシシの需要が増えることから、猟師の人手不足の解消と、イノシシの捕獲数の増加が期待できる。



<https://senken.co.jp/posts/hatabune-180720>

■解決策①、②全体の効果

これらの解決策を実施することによって、廃棄する際の焼却処理費用や、廃棄部分を最小に抑えることができ、無駄なくイノシシを活用しながら、消費量の増加を図ることができる。さらに、イノシシの存在を身近に感じることができ、イノシシを扱う仕事に興味を持ってもらうことで、今後のイノシシ処理業の人材確保も期待できる。

■まとめ

殺処分するだけでなく様々な用途に用いることでイノシシを社会に役立てながら数を減らすことができる。